

126 伝建地区のごみステーション図鑑

伝建地区範囲内にあるごみステーションを図鑑化した。対象は家庭ごみ（一般廃棄物）の収集方法。複数あった場所は、数が多かったものか、修景が行われていたものを採用している。調査しながら、その伝建地区の保存活用計画に「修景」という言葉がどのように表記されているか、どのように行へべきとされているかと、選定年月日、用途地域、他の工作物などの記録を行った。伝建内にごみステーションが発見できなかった、戸別収集である確実な証拠が見つからなかった、Google ストリートビューが対応していない場所などは「不明」としている。

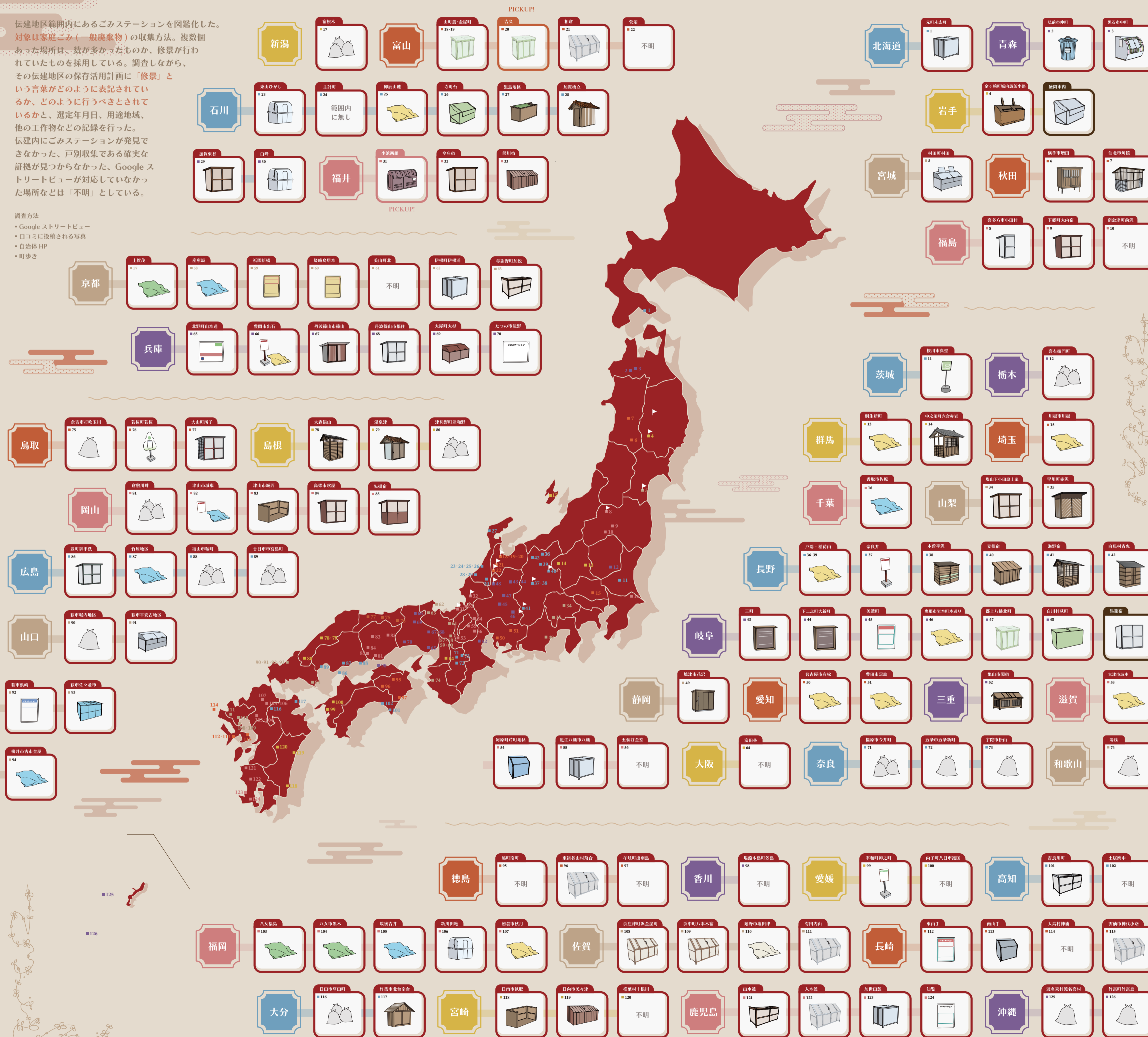
調査方法
 ・Google ストリートビュー
 ・口コミに投稿される写真
 ・自治体HP
 ・町歩き

◆ 提案の対象地区

- 20 富山県 吉久
- 31 福井県 小浜西組

◆ 対象地区の選定理由

- ・現在も人々の生活の場としての住宅地域が多く含まれる
- ・保存活用計画で「修理・修景・許可」タイプを採用している
- ・伝建選定年数が平成15年以降と比較的新しい



私が考える

ごみステーションの修景基準

伝建地区の景観に

『調和する』ごみステーションを設置する

『相応しい』ごみステーションを設置する

- ・伝統的建造物と区別できる、シンプルな形状
- ・落ち着いた色彩

01 黄色、緑、青といった目立つ色は使わない 黒、グレー、茶系統であれば厳密な色指定は行わない

色彩の変更は、一番手軽で手取り早い修景だと考えた。ごみステーションといえば、緑や黄などの原色が多い。その色味は昔の名残りで変更しても問題はなく、黒や茶系統の色にするだけで、景観としては目立たなくなる。また、大規模な工事や作業を必要としないため、コスト面でも安価に抑えられる。

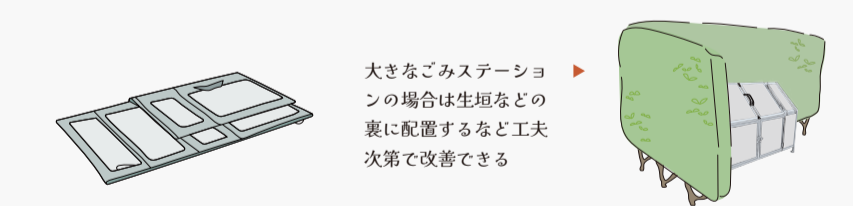


02 未使用時、表通りから見えないことが望ましい また、できるだけ特定物件との隣接を避ける (ただし、防火設備を備える場合はこの限りではない)

ごみステーションは、伝建地区の想定年代には存在しなかったものであるが、生活する上で必要だから現れた、人間の生活の変化による産物でもある。つまり、景観上邪魔だからといって「ごみステーションを設置しない」という選択肢はあまり現実的ではないと考える。

ただ、ごみステーションは常に使用されるわけではなく、ごみ回収の日のみ使用される。その頻度は週2回、朝方のみというように多くはない。そのため、常に設置しておく必要もないのである。よって、簡単に移動できるものや折りたためるものにして、未使用時は表通りから見えないもの・使用方を推奨したい。

また、できるだけ特定物件との隣接を避けるべきだと考える。理由は、景観上の美しさを保つだけでなく、放火による火災で特定物件が被害を受ける可能性があるからだ。防火設備を備える場合はこの限りではないが、可能な限り隣接は避けるべきだ。



03 素材は木でなくても良い

伝建地区のごみステーションを調べてわかったことは、既製品でない場合、木製が多いということだ。調和と聞いて、パツと思いつくものが、木造のものなのだろうが、木製のものは重く、武骨な印象になりやすい。また形態が巨大化しやすく、腐るため寿命が短い。また、放火された際にはより激しく燃える原因になる恐れもある。このことから、ポリエチレンやステンレスなどの現代的な素材も視野にいれても良いと考えた。ただし、あくまで他の選択肢もあるというものであって、木を否定するものではない。